

岡崎むかし館通信

vol.23



<http://www.city.okazaki.lg.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。

また新たな年が始まりました。毎年、大晦日に近所のお寺で除夜の鐘を突き、氏神へ初詣に行きます。今年も健康で、よい学びができるといいですね。

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩くー祈り・願いを叶える(後生車)ー



図1 後生車 本宮山道標(明見町)

先日、明見町を歩いていると、不思議な道標を見つけました。高さ1メートルくらいの石の柱の上部が割り割かれ、輪を嵌めて回すように細工がしてあり、「後生車」という説明が記されていました。もとは信仰の山、本宮山への入り口付近にあったものが、現在の場所へ移設されたのだそうです。

この後生車には、地藏車、念仏車、菩薩車、血縁車、伝法輪など地域によっていろいろな呼び方があります。また天候占いや先祖の弔い、家族の健康祈願など、目的もさまざまですが、車を回すことは共通していて、東北地方には、卒塔婆がこのような形をしている例も見受けられます。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する「天気輪の柱」を覚えている人はいますか？これは賢治の創作となっていますが、後生車のイメージに近いと思います。

回すことにより功德が生じるという考え方の起源は、チベット仏教のマニ車に求めることができます。マニ車とは経文を巻いた装置で、真言を唱えて回すのですが、1回転で千巻の経を読んだことになると言われ、この習慣は現在も続いています。日本では嵯峨清涼寺や長野善光寺の「輪蔵回し」に、マニ車の影響が感じられます。

そんなわけで、岡崎市を含めた周辺地域に後生車がどのような目的で作られ、どれくらい存在しているのか探し始めたところです。先述の明見町含め、今のところ3箇所確認できました。日々の暮らしの安寧のほか、戦争で犠牲になった人々への弔いも込めて、現在も花・線香が絶えない後生車もあります。

何気なく通り過ぎてしまう路傍の石仏や祠、遺跡や遺構ですが、地域を丹念に歩いていると、それらが現在に投げかけてくるメッセージによって、自分の思い描いていた世界が変わる瞬間に立ち会うことがあります。過去・現在そして未来の地域の姿を、五感をフル活用して直に感じてみてください。【N】

むかし館の活動より

むかし館の見学について



平成27年度のむかし館見学の様子

例年、1月から2月の間は、少し昔の暮らしについて学ぶため、多くの小学校3年生がむかし館の見学に訪れます。むかし館は広い空間ではないため、児童数の多い学校は2グループに分かれて見学をお願いしています。先のグループがむかし館を見学している間、もう一方のグループは、子ども図書室で図書館利用の仕方のオリエンテーションを受けたり、図書の自由閲覧などを行って時間を過ごしてもらうことが多いです。

むかし館での見学は、野本欽也主任専門員による解説(授業)を希望される学校が多いのですが、不在の時は、むかし館担当者が説明をします。また、各校の先生自ら、学習のねらいにあわせてむかし館で授業を行いたいときは、事前にご相談いただければ、体験できる道具などの用意もできます。ただ、見学して解説を聞くだけでなく、特に取り上げて解説してほしい道具など見学内容についても積極的に要望をあげていただくと、より授業内容にそった対応ができます。団体見学では一人一人が直接道具に触れて観察することがむずかしいため、道具の貸出も行っています。あわせてご利用ください。むかし館の見学及び道具の借用の仕方は、4月に各校の社会科主任に「岡崎むかし館利用の手引き」(ホームページ上でもPDF形式で掲載)を配布しています。ご確認の上、お問合せください。

(※1/23~27はりぶらの図書館エリアは特別整理休館で利用できません。むかし館は見学できます。水曜休館)

むかし館に来たことがない先生も、ぜひ一度ご来館ください。担当在席時は説明もします！

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成29年1月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.0564-23-3167 / fax.0564-23-3165

開催中 【学習展示「道具に見る暮らしの変化」 ~ 3/21】
 <衣・食・住>にまつわる代表的な道具を取り上げ、使い方や特徴を紹介しています。

予告【コーナー展示：「むかし館のひな飾り」(2/2~3/21)】
 ★愛知県内の博物館・資料館などをめぐるひなまつりスタンプラリー(期間:2/4~3/12)にむかし館も参加予定！
 詳しくは、スタンプラリーの期間中に、参加館で配布するスタンプ帳をご覧ください。